

平成23年 3月16日

財団法人 笹川記念保健協力財団
理事長 紀伊國 献三 殿

施設名 財団法人 ライフ・プランニング・センター
ピースハウス病院

代表者

院長 西立野 研二



平成22年度ホスピス緩和ケアナース養成研究事業助成
に係る報告書の提出について

標記について、下記のとおり報告いたします。

記

- 1 研究・研修事業 平成22年度ホスピス緩和ケアナース養成研究事業
- 2 期 間 平成22年 4月 1日 ～ 平成23年 3月31日
- 3 報 告 書
 - I 事業の目的・方法
 - II 内容・実施経過
 - III 成果
 - IV 収支報告
 - ①助成金の主な使途
 - ②助成金に関わる部分の決算書「写」
 - V 添付書類
研修カリキュラム

I. 事業の目的・方法

1. 目的

ホスピス緩和ケアの実践の場に臨み、自らの体験を通して、また、チームを構成する各専門職からその果たす役割について直接指導を受けることにより、下記の目的を達成できるような研修プログラムを提供する。

研修の目的

- ① 実践を通してホスピス緩和ケアの基本理念を理解し、チームアプローチの実際を学ぶ。
- ② ホスピス緩和ケアに必要な知識、技術、態度を習得する。
- ③ 自施設におけるケアの実践のための具体的な方策がたてられる。

2. 方法

1) 対象

日本看護協会の「ナースのためのホスピス緩和ケア研修」受講生
同様の体制のもと、神奈川県看護協会「緩和ケア認定看護師教育課程」受講生を受入れる。

2) 方法

- ・(財)笹川医学医療研究財団より年間研修受入れ人数について連絡を受け、他の教育プログラムとのスケジュール調整、研修担当看護師の選抜など、研修受入れのための準備をする。
- ・日本看護協会から研修期間・研修生名簿の連絡を受け、研修に関する資料一式を研修生へ送付する。宿泊施設など、受入れのための具体的準備を進める。
- ・院内各職種に研修予定を連絡し、研修への協力を依頼する。研修期間中も、各スタッフからの研修に関する疑問、意見などを聴く体制を持ち、研修の進め方、運営に反映させていく。
- ・プログラムに沿って研修を実施し、研修の成果について、研修生とともに評価する。
- ・教育委員会を設置し、研修の進め方、指導方法、教材などについて検討し、研修受入れについて常に再評価しながら進める。この教育委員会は、受入れ施設のケアの質向上のために、院内教育プログラムの企画、実践、評価の責任を持つ。なお、研修生は希望により院内教育プログラムへ参加することが可能である。
- ・倫理委員会において、臨床場面で遭遇する倫理的課題について検討し、特に研修受入れに関する患者・家族への影響について十分配慮する。
- ・神奈川県看護協会主催の「緩和ケア認定看護師教育課程研修」に関しても方法は「ナースのためのホスピス緩和ケア研修」に準ずる。

II. 内容・実施経過

1. 研修期間

「ナースのためのホスピス緩和ケア研修」「緩和ケア認定看護師教育課程」受講生ともに3週間

2. 研修内容

日本看護協会において基本的な講義を受けているため、研修プログラムは、両受講生とも臨床の場で、ナースと行動を共にしながら、ホスピスにおける看護を実体験することが中心となる。その他、チームを構成する各専門職からの小講義、ケアの継続を学ぶための夜間業務や在宅ケアの体験、また、各種勉強会への参加など、各人の研修目的に添って、研修生自らが選択できるプログラムを提供した。

実際には、ホスピスの全体像の理解を希望する研修生が多いため、図1-1を基本の研修プログラムとし、選択制として図1-2のプログラムを提示し、研修生が自己の研修目的に合わせて、学びたいものを選択し、自分の研修プログラムを立案することとした。

認定看護師教育過程の場合は、実際に患者を受持ち、現場の看護師と共に、ケアプランを立て、ケアを実践していく。その際、研修担当者は、研修生がチームメンバーの一員として、多職種との情報交換、協働がスムーズに進められるよう支援する。

3. 研修の進め方

- ・教育委員会において研修プログラムの検討を行い、実際の受入れ準備は教育研究所が行う。
- ・研修担当ナースが、各研修生の目的に沿った研修プログラムの作成、日々のスケジュール調整、研修生とスタッフとの橋渡しなど、研修現場におけるコーディネーションを行う。
- ・研修の実際においては、担当ナースだけでなく、他の看護スタッフも研修生とともに行動する。看護以外の専門職はその役割について直接指導することがあり、また、ボランティア実習においてはボランティアが直接説明するなど、ホスピス緩和ケアに参加する全てのチームメンバーが研修生への指導に関与する。
- ・研修初日の研修目的の確認、最終日のまとめは、研修担当ナース、看護部長、教育研究所所長が出席して行う。
- ・研修全体の責任、コーディネーションは教育研究所所長が担う。

Ⅲ. 成 果

1. 受講者の背景

「緩和ケアナース養成研修」受講生は12名の予定であったが、本人の都合により研修受け入れ前に1名の辞退があった。実際に受講した11名の年齢は、30才から40才、平均34.9才、勤務場所については、ホスピス緩和ケア病棟4名、一般病棟5名、在宅ケア部門2名、であった。

「緩和ケア認定看護師教育課程」受講生は4名で、年齢は、35才から42才、平均38.0才、勤務場所については、緩和ケア病棟2名、一般病棟2名であった。

2. 研修生による評価

「ナースのためのホスピス緩和ケア研修」受講生は、事前に日本看護協会より実習報告書が渡されており、最終日に提出していただいている。この報告書の中から、実習期間、時期、プログラムの内容、実習受入れ体制、実習指導体制について、11名の研修生による評価を別紙のようにまとめた。

実習期間については、当院は独立型ホスピスという特殊性もあり、特に一般病棟から来た研修生からは、「第一週目は研修の場に慣れるのに精一杯だった」という声を聞くことが多い。しかし、同時に、この一週間はホスピスケアの環境を理解するには意義深い時間となっているようである。ホスピス緩和ケアの現場を全体的に把握するには3週間という期間は概ね適切であったようである。職場への負担を考えると3週間は長いという声もあり、仕事を休んで参加することへの負担感もうかがえたが、個人的にはもう少し長く研修したかったという意見が複数あった。

実習時期については、日本看護協会において3週間の講義を受け、その後すぐ実習に参加する者と、いったん現場に戻った後あらためて実習に参加する者がいる。全ての研修生が希望の時期を選べなかったようであるが、講義を終えてすぐ実習に入る場合は、理論と実際を結びつけやすく、逆に、いったん自施設に戻った後に実習をする場合には、臨地実習に対する不安もあったが、講義内容を振り返ることができ、問題はなかったという意見があった。むしろ、講義から少し時間を空けた方が気持ちを落ち着けて実習に取り組むことができたという声もあった。

実習プログラムは、各人の研修目的にそって選択できる方法を取り入れた。ほとんどの研修生が、多職種によるチームケアやボランティアの活動に関心が高く、在宅ケアや教育にも関心を示した。音楽療法やリンパマッサージなど、当院で行われているケアの見学、また、時間外に開催される入院判定会や事例検討会、Study Day（症状マネジメント学習会）などにも積極的に参加する姿が見られた。多職種の体験や講義の希望がある場合でも、1週目には看護の現場を体験し、ホスピス緩和ケアの実際を体感してもらうことが必要と考え、2週目以降に多職種を取り入れるように配慮している。そのことが看護の役割や多職種の役割をあらためて理解するのに役立ったという意見もあった。研修生自身でプログラムを完成することで、研修への自己責任の意識が高まり、取り組む姿勢も積極的になり、各人の満足度を高めたのではないかと思う。

実習受入れ体制、指導体制については、「研修生もチームの一員として受け入れてもらえた」「こちらが学ぼうとしていることを一緒に考えてもらえた」など、受け入れ体制やスタッフの指導体制について評価をいただき、全ての職員、ボランティアが研修受入れへの必要性、重要性を理解し、実際の指導にも参加していることで研修生からも一定の評価をいただけたものと思う。なお、各研修生の研修目的の達成度などについては、各自の報告書が別途提出されているのでここでは省略した。

3. 認定看護師研修

神奈川県看護協会認定看護師教育課程の研修生受け入れは今年で2年目となった。認定看護師を研修担当として配置し、昨年度の反省点を振り返りながら、起こりうる問題に早めに対処することができたのではないかと思う。

研修生の背景として4名のうち2名は緩和ケア病棟で勤務し、十分な緩和ケア経験を持っていたが、入院から丁寧に関わることで、それぞれが自身の経験の中でぶつかった課題について再考し、ケアを振り返る様子がうかがえた。また、看護だけでなく、多職種へも関心を向け、チームケアについての更なる理解を深めたようである。一般病棟に勤務している2名は、臨床実習で初めてホスピス緩和ケア病棟に入院している患者を目の当たりにし、時間の使い方や言葉かけに戸惑うことも多かったようであるが、患者を実際に受持ち、ケアに参加していく中で徐々に理解していくことができた。

4. おわりに

以上、平成22年度ホスピス緩和ケアナース養成研究事業の成果を述べた。

(財) 笹川医学医療研究財団、看護協会、そして実習施設との連携・協力により、今年度も充実した研修プログラムを展開することができた。

一般病棟における緩和ケアの質の向上を目指して研修に参加している看護師、また、在宅ホスピスケアのメンバーとして活動を期待されている研修生にとって、自身の勤務する職場と独立型ホスピスとの環境の違いは戸惑いもあったようであるが、緩和ケアの基本、多職種によるチームケアと看護の役割、症状マネジメントの実際など、ケアの本質は変わらないことを確認する機会となり、学びを深め、有意義な研修になっていたと思う。

研修受入れ側の課題としては、研修生は大きな緊張の中にあり、スタッフの関わり方によって3週間の過ごし方が大きく違うのではないかと実感することが多い。これまで多くの研修生を受け入れてきたが、研修生を受け入れる側の姿勢や体制について、また声のかけ方についても、自分自身を研修生に置き換えて考えることの大切さを、今年度、あらためてスタッフとともに再確認した。多くの研修生から「研修生もチームの一員として受け入れてもらえた」という声を聞き、研修を受け入れる側にとっては何回も経験したことであっても、研修生にとっては初めてのことであることを、常に認識しながら研修生を受け入れていくことの重要性を再確認した。

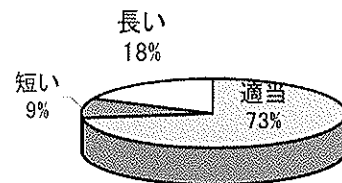
いつでも、どこでも、誰でも、緩和ケアが受けられるように、ホスピス緩和ケア病棟だけでなく、一般病院の中では緩和ケアチームが活動し、あるいは緩和ケアチームのない一般病棟や高齢者ケア施設の中でも緩和ケアが提供できるようなエンド・オブ・ライフケアの重要性が謳われるようになった。そのような動きの中で、ホスピス緩和ケアの専門施設として、自らのケアの質の向上に努めるとともに、今後も、積極的に研修生を受け入れ、ともに成長する機会としていきたい。

平成22年度「緩和ケアナース養成研修」実習報告(一部抜粋)

1. 実習期間はいかがでしたか

適当	短い	長い	計
8	1	2	11
73%	9%	18%	100%

実習期間

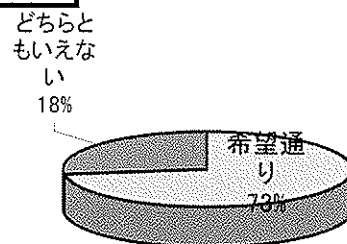


- ・緊張感という意味で、良い期間
- ・生活も落ち着き、スタッフの方や施設にも慣れて学ぶことができた
- ・個人的には、3ヶ月位、実習できたら良かったと思いますが、今回の研修目標としては良かったと思う
- ・看護師の動きや、多職種の動き、関わりが見えて良かった
- ・一連のルーチンワークを含め、同行、観察、介入するのに適当な期間だった
- ・もう少しピースハウスで学びたい思いもあったが、仕事のことを考えると適切だと思う。気を引きしめつつ集中できる期間だった
- ・仕事を休んで研修に参加するため、職場への負担を考えると長かったと思う

2. 実習の時期はいかがでしたか

希望通り	どちらともいえない	希望にあわなかった	計
8	3	0	11
73%	27%	0%	100%

実習時期

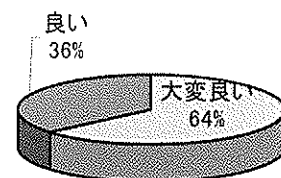


- ・座学の直後に実習に入れたことで、より深く学ぶことができた
- ・研修から1ヶ月後で、忘れてしまっているか不安はありましたが、振り返りは十分できたと思う
- ・講義から多少時間をおき、実習に入ることができ、気持ち的にも落ち着いて受けることができました
- ・講義から4ヶ月経っていたので、最初は不安でしたが問題はありませんでした

3. 実習プログラムの内容はいかがでしたか

大変良い	良い	まあまあ	不十分	計
7	4	0	0	11
64%	36%	0%	0%	100%

プログラムの内容

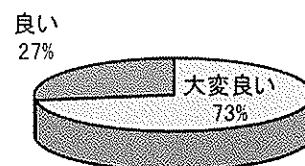


- ・こちらの目標に添ったことを中心にアレンジしてもらえた
- ・目標に添って希望のプログラムを作っていただき、実りの多い実習となりました。コーディネートして下さった指導者、受け入れて下さったスタッフの方々に感謝しています
- ・1週目で看護師を体験することで病院での看護師の役割を理解でき、その後、多職種を体験することで、あらためて理解できた
- ・多職種との関わりや体験もできました
- ・突然の希望に対しても、タイムリーに調整していただきました
- ・自主的に学びたいことをさせていただいた

4. 実習の受け入れ体制はいかがでしたか

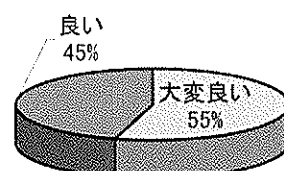
大変良い	良い	まあまあ	不十分	計
8	3	0	0	11
73%	27%	0%	0%	100%

受け入れ体制



- ・ 研修生もチームの一員として受け入れてもらえた
- ・ 緊張する現場の中で実習を受け入れて下さり、ありがとうございました。
皆さん親切で、私もお返ししていきたいと思います
- ・ 日々関わる看護師の方をはじめ、様々な職種の方が快く受け入れて下さった
- ・ 受け入れてもらえていると感じられた
- ・ 患者さんとコミュニケーションをとりながらケアや散歩をさせていただき、見学で終わらなかったのが良かった
- ・ 組織連携がしっかりしており、不安もなく参加、行動することができた
- ・ 良い学びができるように配慮して下さったプログラム、それに合わせて各職種の方の心遣い、生活の面まで本当に安心して実習することができました

指導体制



5. 実習の指導体制はいかがでしたか

大変良い	良い	まあまあ	不十分	計
6	5	0	0	11
55%	45%	0%	0%	100%

- ・ こちらが学ぼうとしていることを、一緒に考えてもらえた
- ・ 多忙な中、丁寧に様々なことを教えて下さり、感謝しています
- ・ 相手の能力に合わせて指導していただきました
- ・ 学びたい、知りたいことに対して質問できました。中には受け持った患者さんの状態や行ったこと等の目的を説明して下さる方もいて理解が深まりました
- ・ 日々、様々なスタッフの方のわかりやすく丁寧な説明があった。質問に対してもわかりやすく説明をいただいた
- ・ 日々、担当者が変わることで個のオリジナリティを客観的に観察することができ、大変学びの多い実習となりました。希望を調整していただき、能動的にケア参加させていただけたことに感謝いたします

以上

図1-1

平成22年度 研修プログラム(基本)

		8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00
第1週	月				オリエンテーション			チームに紹介 チームミーティング		宿泊施設へ案内			
	火												
	水		申し送り		ナースと共に行動				ナースと共に行動				
	木										申し送り		
	金												
		8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00
第2週	月			Vo活動									
	火				礼拝								
	水		申し送り		ナースと共に行動				ナースと共に行動				
	木							チームミーティング			申し送り		
	金												
		8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00
第3週	月							チームミーティング					
	火		申し送り		ナースと共に行動				ナースと共に行動				
	水										申し送り		
	木												
	金			まとめ				チームに挨拶					

図1-2

平成22年度 研修プログラム(選択)

※ 研修プログラムの調整

実習はナースとともに行動し、ホスピスにおけるケアの実際を学ぶことが基本であるが、各人の研修目的に応じて、他の学習の場(□□で表示)を選択することができる。

研修プログラムの調整は、研修生の希望をもとに看護部長又は研究部長と相談しながら、研修担当ナースが行う。

※ 患者の受け持ちについて

短期間の研修のため、基本的に患者を受け持つということはないが、研修生の希望があれば、同じ患者の看護に継続して参加できるようアサインメントを工夫する。

※ 研修期間中に開催される事例検討会、Study Day、ホスピスカケア研究会、地域緩和ケア研究会、について、研修生の希望がある場合は参加可能とする。

		8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00
第1週	月				オリエンテーション			チームに紹介 チームミーティング		宿泊施設へ案内			
	火												
	水		申し送り										
	木							インチャージ コーディネーター	ソーシャル ワーカー			入院検討 委員会	
	金												
		8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00
第2週	月			Vo活動									
	火				礼拝	チャプレン						Study Day	
	水		申し送り		医師								
	木							チームミーティング	栄養士	看護			
	金			訪問看護②					訪問看護①			事例検討会	
		8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00
第3週	月							チームミーティング					
	火		申し送り		インチャージ業務				インチャージ業務				
	水												
	木	夜勤									申し送り	夜勤	
	金			まとめ				チームに挨拶					

共通体験

希望により体験